

# 『叡智の結晶』 ～哲学的コラム～

## 【目 次】

- 一 「古典的良書の本質について」
- 二 「叡智的幸福について」
- 三 「短歌と境地について」
- 四 「哲学的情熱について」
- 五 「天才とは何か」
- 六 「理念に始まり理念に終わる」
- 七 「恋愛の産み出すもの」
- 八 「人物を見抜くとは」
- 九 「美しい言葉について」
- 十 「偉人と肖像について」
- 十一 「ドラマについて」
- 十二 「清貧の思想と清豊の思想」

- 十三 「道德倫理と哲学者たることについて」
- 十四 「議論の本義と効用について」
- 十五 「清濁併せ呑む道德について」
- 十六 「自他一体の勝利成功の道について」
- 十七 「美意識と平衡感覚と大和心について」
- 十八 「古代えの郷愁と新時代のビジョン」
- 十九 「宇宙人という視点から」
- 二十 「秘められた数学的美と剛さについて」
- 二十一 「二十世紀の総決算と新生日本の希望について」
- 二十二 「哲学的王者と精神の美について」
- 二十三 「武士道を裏うちする精神態度について」
- 二十四 「文化文明の豊かさと哲学の道について」
- 二十五 「叡智の光明が生き筋を照らしてゆく」
- 二十六 「大宇宙の根本原理としての『天之御中主神』について」
- 二十七 「日本的自己犠牲の精神と武士道について」
- 二十八 「大和武命の創られたストイシズムの哲理について」
- 二十九 「論語を活学し大道に生きることについて」
- 三十 「リアリズムと善因善果 悪因悪果の法則について」
- 三十一 「リアリズムと一大光明芸術について」
- 三十二 「新生の精神と一大光明芸術について」
- 三十三 「愛は万人の心の内にある」
- 三十四 「リーダーシップと明鏡の如き心境について」
- 三十五 「正義の大道と法の精神について」
- 三十六 「大和心における平和と調和の哲学について」
- 三十七 「太陽の国とは徳の幸ふ国である」

- 三十八 「真なる学問と哲学の源にある宗教感情の大切さについて」
- 三十九 「宗教的寛容さと新生ルネサンスの精神について」
- 四十 「実践哲学として宗教的精神を活かす道について」
- 四十一 「『先験的総合』は可能であるという哲学思想が新生日本ルネサンスの礎となる」
- 四十二 「経済学をはじめ諸学の根本は哲学的真理に始まる」
- 四十三 「魂の記録の内に生命の花が咲く」
- 四十四 「言霊と神剣について」
- 四十五 「高杉晋作とエチュード『革命』について」
- 四十六 「久坂玄瑞とフランス音楽の響きについて」
- 四十七 「道徳書簡と新時代の文学形式について」
- 四十八 「『名』と『形』を問う真なる哲学について」
- 四十九 「哲学の幅を広げてゆくことの大切さについて」
- 五十 「理念資本主義社会における経営理念の意義について」
- 五十一 「理念政治学と哲学的真理の意義について」
- 五十二 「『円相の哲学』と繁栄大革命の哲理について」
- 五十三 「『天網恢恢疎にして失わず』なる絶対精神の世界計画について」
- 五十四 「『神は多くの名前を持つ』の基盤となる『一即多多即一』の真理について」
  
- 五十五 「『生』と『死』と『復活』の後に新時代と新生日本が誕生する」
- 五十六 「革命的言動と秩序礼節を全うする志士道精神について」
- 五十七 「美しい国の経営精神について」
- 五十八 「美しい国のための感性教育について」
- 五十九 「真なる『大学』とは哲學家が創るものである」
- 六十 「『易』という運命開拓の視点について」
- 六十一 「禅（ZEN）と数学的基底とIT革命について」

- 六十二 「アルキメデスが『天之御中主神』を発見されたのは今は昔である」
- 六十三 「数学と音楽による理念経営について」
- 六十四 「ローマ帝国を通して顕れた世界精神について」
- 六十五 「繁栄を活かす真理としての普遍哲学について」
- 六十六 「文学の形式を通した『統合と個性の開花』の精神について」
- 六十七 「叡智と慈愛と勇気の哲学とリーダーの条件について」
- 六十八 「彫刻を通して顕れた理念（ロゴス）について」
- 六十九 「ローマ彫刻と理念神像の型について」
- 七十 「国家千年それ以上の大計と都市計画の視点について」
- 七十一 「言挙げしない国の仏の御姿について」
- 七十二 「『喜捨』の精神と武士道精神について」
- 七十三 「『ありがとう』の哲学と光明真言について」
- 七十四 「劉備玄德と諸葛孔明を通して顕れた『信仰と愛』の精神について」
- 七十五 「理念武士道 理念兵法の力学的考察について」
- 七十六 「光明の主座を保てば衆知が真に生き幸えてゆく」
- 七十七 「円相の精神が公正なる愛と正義を育んでゆく」
- 七十八 「先天的価値を尊重する科学哲学について」
- 七十九 「ロックと福澤諭吉と世界史的現実について」
- 八十 「国際日本武士道教育の視点について」
- 八十一 「理念自由競争と自他一体に活かす一大光明芸術について」
- 八十二 「理念トレンディー文化創造と『センス』への投資について」
- 八十三 「善き国民が善きリーダーを育て器のある国民が器のあるリーダーを創ってゆく」
  
- 八十四 「『絶対空』の哲理と『統合』哲学の真義について」
- 八十五 「行為即直観 直観即行為たる生命の文化について」

- 八十六 「坂本龍馬の像の中にある身体のDNAと魂のDNAについて」
- 八十七 「『絶対真理』としての仁愛慈の大道とその応用について」
- 八十八 「『理念三権分立』の哲理と『絶対無』の場所の意義について」
- 八十九 「坂本龍馬に観る『幼児』の心について」
- 九十 「色彩と音楽と『生命の詩』について」
- 九十一 「神武天皇は過去現在未来の『神話』である」
- 九十二 「哲学によってこそ『大いなる夢』は実現されてゆくものである」
- 九十三 「哲学によって真に新生する国家と人間像について」
- 九十四 「真理と哲人の風格について」
- 九十五 「独立自尊精神を育む真なる実学の考え方について」
- 九十六 「理念恋愛と理念芸術の華について」
- 九十七 「エロス（愛）の神に仕える精神の純粹さと透明感について」
- 九十八 「ルネサンス的発想と真なる統合精神について」
- 九十九 「『剛さ』の根底にある平静心について」
- 百 「無償の愛と祝福の心が一大光明芸術を創造してゆく」